

デジタルX生

ムなどのリズムパターンが収録され、子どもたちはそれに合わせて、ベースラインや飾りのフレーズを「GarageBand」に収録されているさまざまな音源（楽器）で演奏する。「本来であれば、つくった曲をみんなで歌いたいと考えていました。が、コロナ禍のため生歌ではなくボカロに。結果、早口言葉や高い声といった生では表現できない要素も曲に取り入れることができました」とMASAKingさん。

子どもたちを想定したとて、アレンジはなかなか本格的。つまり、演奏の難易度も高い。コンテストに向けてMASAKingさんによるレッスンはオンライン3回、対面3回実施されたそうだが、演奏後の子どもたちからは、「休み時間にも練習動画を見ながら練習した」「家にタブレットを持って帰って練習した」などの声が開かれた。

演奏には、パフォーマーが自身の技を披露する「ショーケース」が組み込まれ、各クラスの「芸達者」が歌、バレエ、ダンス、ポイスパーカッションなど、さまざまなパフォーマンスを披露した。各クラスのショーケースを振り返り、MASAKingさんは「今回、ショーケースでのパフォーマンスは子どもたちにおまかせしましたが、普段の授業で披露しているリコーダーなど、アコースティック楽器と電子楽器のコラボも面白そうですよ」と、さらなる可能性に期待を込めた。各クラスの発表が終わったところで、MASAKingさんによるミニライブが行われた。ステージ上の電子パーカッションとモニターに映し出された電子ドラムによるパフォーマンスで、各クラスのオリジナル曲をメドレーで披露。自分たちのクラスの曲が演奏されると、客席の子どもたちももちろん、「子どもたちに最高の思い出を」と、一緒にアンサンブルをつくり上げてきた学級担任や音楽

専科の先生たちからも歓声が上がった。

GIGAなら「みんなでできる」

結果発表の前には、ゲスト特別審査員を務めた、世界的に活躍をしている音楽プロデューサーのTeddyLoidさんが登場し「僕もみんなと同じ小学生のときに自分で曲をつくり始めました。その頃は、家に帰ったら一人で、コンピューターを使って作曲をしていました。だから、今日のように、みんなで一緒に作曲できることがとてもうれやましいですね」とコメント。演奏だけでなく、楽曲づくりから「みんなで一緒にできる」というのも「GIGAアンサンブルコンテスト」ならではの。

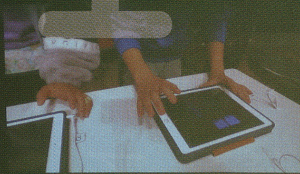
最後に上位各クラスおよび特別賞（ステキな歌詞で賞、ナイスメロディー賞、グッドアンサンブル賞の発表が行われ、コンテストは閉幕。賞に喜ぶ子どもたち

①ステージ後方には、演奏者と歌詞が書かれたスライドショーが映し出される ②リハーサルでの他クラスの演奏にも自然と拍手が生まれる ③ステージ上には8台のiPadが置かれ、演奏では4台を交互に使用。「全員で一斉に演奏したいところですが、電子楽器で同じ音色を同じタイミングで演奏すると音がうまく混ざりません。そのため4台ずつのiPadをリレー形式で演奏してもらいました」(MASAKing) ④ステージには、撮影役の子どもの姿も。撮影した映像は、ステージ後方のスクリーンに映し出され、演奏に華を添える ⑤ショーケースではさまざまなパフォーマンスで会場を盛り上げる ⑥特別審査員のTeddyLoidさんは、ヒューマンビートボックスによる「上を向いて歩こう」を披露しながら登場 ⑦プロデューサーからミニライブまで、子どもたちを楽しませ続けたMASAKingさん



GIGA アンサンブルコンテスト 2021

の姿はもちろんだが、クラス全員でつくり上げたオリジナルソングをコンテスト後もうれしそうに口ずさむ子どもたちの姿も、特に印象的だった。



iPadでつくってiPadで演奏する

本コンテストに向けての取り組みは、題材「和音に合わせて旋律をつくらう」（5年生・音楽づくり）の授業から始まった。

授業で子どもたちは、音楽制作アプリ

「GarageBand」を用いて、「C・F・G」の3つのコードを使い、一人1つ旋律をつくる（4分の4拍子・4小節）。その後、出来上がったフレーズをGarageBandのアップロードし、クラス全員で人気投票を行った。そこで選ばれた「クラスの代表メロディー」がコンテストで演奏する曲のモチーフとなる。アレンジは本コンテストをプロデュースした音楽プロデューサーのMASAKingさんが担当。彼は、横浜市の小学校で音楽専科として教鞭を執つていた経歴を持ち、本コンテストが音楽づくりの題材とながつているのも、その経験があったからこそ。つまり、音楽科の活動、学びの延長に「GIGAアンサンブル」がある。

アレンジを行っている間に、子どもたちは歌詞づくりに取り組む。作詞に当たっては、「自分たちのまちに対する想い」というテーマが設定され、「桜がきれいな大きな木がある」「広い校庭に美しい緑道」といった自分たちが暮らすまちや学校の自慢の景色から、まちに対する想いまで、さまざまな言葉が紡がれた。子どもたちが考えたメロディーと歌詞にプロならではの彩りが添えられ、楽曲は完成。ここからコンテストに向けた練習が始まる。

アンサンブルの音源には、メロディー（歌詞付き）を歌うボーカロイドとドラ